



詹其力先輩への感謝

以前こんな言葉を聞いたことがあります。「人は自分のためにやらなければ、天罰が下る（人はだれもが利己的だという意味）」。聞きたくないような、少し怖い言葉です。が、真実をついているのも否定できません。この考えは普通の人の心の中に存在します。が、一方でごく僅かですが、ほかの人のために尽力する人もいます。そういう人たちはほとんどが宗教家とか政治家とか、後になって尊敬され偉大だといわれる人たちです。経済界にいたっては、社会貢献する人もいますが、それは名を残すためのものであることが多々あります。そんな中、彰化工業高校の中にいつも善行を施し、黙って人助けをする先輩がいます。それが詹其力先輩です。



詹先輩の合璧会社の彰三重仁愛路にあります。40年前の旧式家屋で現代的な大型設備を備えた工場ではありませんが、きれいに白く塗られた壁のペンキやきちんと整理された機械、窓の外に置かれた盆栽の底の部分まで清潔感にあふれています。会社の付近もきれいです。道にビンロウを吐いた跡もありません。これは詹先輩が毎朝先頭になって掃除をした結果です。今では従業員や近所の人たちまでそれに習っています。

合璧会社は従業員の福利を重視しています。このほか利益の25%を幹部に分配、5%を社会に還元という特種な規則があって、長年にわたって多くの人を援助しています。詹先輩はこうした援助を身近な親戚からはじめ、母校の卒業生、さらには見知らぬ人にも広がっています。わたしの知る例では、ふたりの日本人が事業に失敗したときも彼らを援助したとのこと。そのうちのひとりが今では合璧会社日本事務所の代表となって日本の企業から多くの注文を獲得しているそうです。

詹先輩の「自分を厳しく律し、善行を施すことに楽しみを見出す」という考え方は彰化工業高校のみんなも学ぶべき精神です。詹先輩はこれまでに多くの卒業生を助けていますが、わたしも助けられたうちのひとりです。というのは2001年、楊忠吉会長の勧めでわたしは同校に気功部を開きましたが、熱心あまりお金の方面で大きな失敗を犯してしまいました。

わたしは気功部の活動には室内練習場が必要だったので、学生からお金を徴収して場所を借りました。ところが、4ヶ月分を徴収したところで部は解散してしまいました。この状況を重く思った詹先輩（当時の気功部の顧問）が詹先輩に相談すると、詹先輩はお金の問題を解決するために援助をしてくれました。さらに詹先輩はわたしに対して毎月5千円の手当を申し出てくれました（これは丁重にお断りしました）。詹先輩の気持ちには本当に感謝しています。この先もずっと忘れません。

お金があると人からは羨ましがられ、時には嫉妬されることもあります。しかし、礼儀があればそれは修業となります。富を喜んで人のために使うことは菩薩のような行爲です。成功した人は多くのお金を寄付しますが、素晴らしい行爲だと思います。詹先輩の時を得た援助も感動を与えるものだと思います。

台湾般若禅功研究会創始者 陳紹寬 (彰化工業高校卒業生)

合璧の経営理念について

合璧の経営理念は、合璧の発展の原動力であり、合璧の事業の源泉であり、合璧の魂です。

「ひとつの仕事や五年続ければその道の専門家、十年続ければ権威になれる」といわれますが、董事長はその一生を「弛み無い不断の思考と行動を取る。誠実に変化に適応し、卓越した創意を図る。価値を創造し、共生共栄を図る。感謝と報恩の念を以って、社会に寄与」といった経営理念に捧げ、常に周囲の人々に影響を与え、短い言葉で偉大な企業家としての人生哲学を表してきました。

(一) 弛み無い不断の思考と行動を取る

「制度化されたものはそれを学べばいいが、まったく新しいものは模倣できない」。合璧が過去数十年にわたって驚くようなスピードで発展した原因はここにあります。思考と創造は合璧にとって単なるスローガンではなく、行動そのものです。毎朝の改善提案によって会社は常に新しい創作と活力にあふれ、その結果、研究開発員が多くの特許や新製品を生み出しています。それが合璧の競争力となっているのです。

(二) 誠実に変化に適応し、卓越した創意を図る

人は信用なしに成功できません。企業ならなおさらです。合璧では毎日従業員が自らの意思で進んで残業し、お客様の信頼を得ています。合璧ではお互いを騙したり、策略に陥れたりすることはありませぬ。従業員は兄弟のように仲良く、お互いを尊敬し、信頼しています。「気配りと思いやりで接する」ことが実践され、文化的な空気が工場中にあふれています。

上海合璧電子电器有限公司
中国201-805上海市嘉定区安亭鎮安曉路318号
TEL:+86-21-5960-5468

(三) 価値を創造し、共生共栄を図る

合璧は商業的な利益に留まらず、社会的な価値も作り出しています。花園のような工場は従業員が新鮮な空気の下で自然の美しさを満喫し、さらには人と自然の一体化ができるようになっています。合璧はいつも職場の環境や従業員の生活レベルの改善に心掛け、仕入先やお客様の利益を考え、ともに歩んでいく「共生共栄」を目指しています。

(四) 感謝と報恩の念を以って、社会に寄与

合璧は40年にわたって社会から何かを取ったことはありません。すべて董事長率いる従業員が苦勞して積み上げたものによって発展し、社会に対しては反対に毎年巨額な価値を提供しているのです。董事長の強力な社会に対する使命感と責任感の下、合璧の従業員は自らの意思で休日に慈善の社会ボランティアに参加しています。また、合璧は従業員ひとりひとりのことを思いやっています。そればかりか、年末には元従業員に対しても会社や社会に対しての貢献に感謝して、董事長が感謝のお金を送っています。

董事長の経営理念は合璧の文化となり、その文化が従業員の価値観を形成し、さらには行動を決定します。合璧文化によって従業員は創造したり感謝したりする心を持ち、大きくなっていきます。こうした従業員は合璧が業界をリードする上での核です。合璧を航海中の船にたとえらるなら、董事長は船長、そして経営理念は羅針盤のようなものだと思います。

弛み無い不断の思考と行動を取る
誠実に変化に適応し、卓越した創意を図る
価値を創造し、共生共栄を図る
感謝と報恩の念を以って、社会に寄与

上海合璧製造課副工場長 張文榮



張家界見学の思い出

今回、会社から張家界見学の機会をいただいたこと、とても感謝しています。この五日間、わたしは董事長の指導の下で多くのことを学びました。

今回の活動に当たって董事長は「これは旅行ではなく見学」ということを強調しました。人と自然、真善美、共生共栄、合璧文化の伝達などを学ぶためです。

さて、わたしたちの旅は鳳凰古城を見物したあと、沱江で川下りを楽しみました。みんなは二艘の船に分かれて乗り込み、兩岸の美しい景色を觀賞していました。すると董事長が口笛を吹き出しました。そして、みんなはそれに合わせて社歌を歌いました。このとき後ろの船から美しい歌声が聞こえてきました。それは後ろの船に乗っていた若い娘の歌でした。二艘の船が並んだとき、彼女はお互いの船で歌合戦をしようといいました。わたしたちは合璧の誇りにかけて負けるわけにはいきません。そこでみんなの大合唱がはじまりました。歌が終わると、みんないっしょに笑い出しました。「いいぞ、いいぞ」。みんなで褒め合いながら、その後も歌は続きました。

この数日間で、わたしたちは芙蓉古嶺、森林公園、天子山、袁家界など張家界国立公園とその付近の観光地を見学しました。その中に黃龍洞というところがあります。そこは洞窟の中に洞窟があり、川があり、曲がりくねった山道があるところです。その山道を歩くとたいへん疲れます。しかし、董事長は少しも疲れた素振りを見せませんでした。董事長はどんなときでも常に強い意志を持っているからです。だからこそ、わたしたちのリーダーなのです。

洞窟から出たとき、わたしは董事長の足にまだ完全によくなっていない手術跡を見つけた。本当に驚きました。そして素晴らしいリーダーを持った自分のごとく誇りに思えました。

今回の見学は美しい景色を見るだけではなく、それにくわえて大自然の中に入ってそれを感じ、「人と自然の融合」の境地を味わいました。これは日常の仕事についてもいえる事です。仕事の中に自分を投入して、そこで楽しさを実感しながら仕事を改善し、自らも成長していくのです。

見学の途中、わたしは董事長から何度も「関心、関懐、関照（気配りと思いやりで接する）」という言葉を感じました。例を挙げると、空港でバスに乗るために並んでいるときや観光地を見物しているとき、董事長はいつも「みんないるか?」とか「みんな一箇所に並んで」とか言って気を配ります。天子山で「百龍天梯（岸壁のエレベーター、高さ326m）」に乗るときも「みんな乗ったか?」と確認します。そして董事長は何かにつけてこういいます。「われわれはひとつの団体。自分勝手は許されません。他人のことを思い、団体としての榮譽を感じ、協力する心を持たなければなりません。こうした董事長の細かな行動や話によって、わたしたちはどうすれば回りの同僚に対して気配りと思いやりで接することができるかがわかります。現場責任者のわたしにとってはとても大事なことです。もうひとつ、董事長がよくいうのは同僚たちのことを知りたければ同僚たちといっしょにならなければならないということです。そうすることで彼らの優れところが発見でき、それを伸ばしてやることもできます。合璧の同僚は本当にみんな同じ心と同じリズムでともに歩んでいると思います。

「どこにいても、一致団結と人のためを思う精神は必要です」。董事長は度々この言葉を強調します。それは「利他」の精神、つまり団体の中では自分のことだけを考えた勝手我保はしてはいけないということです。たとえば、駅で電車を待つときは並ぶ、空港でホテルで荷物を置くときはきちんと整理する、講演や会議のときは携帯電話を振動に切り替える、道を歩くときは右側を歩いて他の人にぶつからない、ホテルのチェックアウト時は部屋の中を元通りに整頓する、食事のあとはテーブルをきれいに掃除する、人と話するときは大声を出さない……。董事長はまるで家長のように、従業員にこれらのことを根気強く教えます。そんな董事長からは「小さな事が大きな事になり、積み重なるところから完璧なものになる」ことを実感します。よい習慣、それは小さなことの細か重ね。こうやってわたしたち家族の家長ができたのです。今年74歳の董事長は厳しさでこだわりを持ちつつ、静かで謙虚、まさに後輩のわたしたちの模範です。

さて、ここで荷物の問題についてもお話しましょう。出発の数日前、董事長は荷物に二つ以上の目印をつけるよういっていました。そうすることで自分に自分のだとわかるからです。しかし、多くの同僚がそんなことしてもあまり意味がないと思っていたようです。ところが、空港で税関を出たとき、みんなびっくりしました。わたしたち団体ではなく皆さんの荷物にもわたしたちと同じ赤いバンドが巻かれていたのです。このとき董事長の細かな行動や話によって、わたしたちはどうすれば回りの同僚に対して気配りと思いやりで接することができるかがわかります。現場責任者のわたしにとってはとても大事なことです。もうひとつ、董事長がよくいうのは同僚たちのことを知りたければ同僚たちといっしょにならなければならないということです。そうすることで彼らの優れところが発見でき、それを伸ばしてやることもできます。合璧の同僚は本当にみんな同じ心と同じリズムでともに歩んでいると思います。

旅の最後にもうひとつ。空港で荷物を受け取ったとき、ひとりの同僚のスーツケースが壊れていたので空港職員に問い合わせると、弁償すること、彼はその手続きに行きました。しかし、彼はそのことをほかの同僚にいいませんでした。みんなはバスの中で彼を待っていました。彼が戻ると董事長が厳しく叱りました。「どうして許してあげられないんだ。それに、みんながここで待っているのがわからないのか。自分のためだけを考えて、ほかの人のことを考えないのは団体精神に反する行為だ」。それを聞きながら、わたしは今後の仕事や生活で他人のことを考えることの大切さを感じました。自分勝手はだめ。大きな心で、他人を許す。これらは改善しなければならないことばかりです。

今後は仕事において、どんな事でも「再好一点、Much better、もっと良い」習慣を身に付けて自分の質を上げたいと思います。董事長のいう「叱るは3、褒めるのは4、育てるのは5」という事を考えながら、改善を続けていきたいです。今回の機会を与えてくれた会社にもう一度感謝します。そして今回学んだことを仕事や生活に活かして会社の発展のために頑張りたいと思います。

上海合璧製造課主任 李愛芳

合璧は我等温モリの家；我は合璧を愛し、合璧は我を愛する；關心關懐關照 同心同步同調！



高らかに響くみんなの歌声



黃龍河のめずらしい風景

